

世界のソーシャル・ビジネス

米国
サンディエゴ

絶滅危機の黒檀救え 取引変えたギターメーカー

ギターやバイオリンの指板に使われる黒檀こくたんがいま、絶滅危機に瀕している。アコースティック・ギターで全米トップの売り上げを誇るテイラー・ギタースは、こうした状況に直面し、黒檀取引の改善に乗り出した。違法木材を排除するだけでなく、B級材の受け入れにも積極的だ。
(サンフランシスコ=藤 美保代)



サブライ・チエーン・ディレクターであるチャーリー・レッドン氏。右に持つのがB級材

米国西海岸の都市・サンディエゴに本社と生産拠点を置くテイラー・ギタースは25年前から、指板に使用する黒檀を中部アフリカのカメルーン産でまかなっている。そもそも黒檀は、アフリカ中部、マダガスカル、インド地域などの限定された熱帯雨林にしか自生しない希少な種。しかし、弦楽器以外にも家具、装飾品、ピアノの黒鍵などに使われ、高い商品価値があり、黒檀の森を切り尽くす破壊的な伐採が続けられていた。

その結果、多くの自生地域で、黒檀の森はほぼ消滅。カメルーンが唯一、合法的に黒檀の商業伐採ができる国となった。

B級をA級価格で買取り

黒檀の危機を知ったテイラー・ギタースは2011年、黒檀取引の改善に乗り出した。まずは黒檀を卸していたスペインの企業との合弁で、カメルーンの木材加工工場を買収。伐採の認可システムを強化して、違法木材を排除し、合法

に認可を得て切った木材だけを受け入れる体制を整えた。そうしたなかで、テイラー・ギタースの共同創立者ボブ・テイラー氏は、買収した加工工場に黒檀を納入している伐採業者から「B級の木は使えない」という嘆きを聞いた。

B級の木はA級の5分の1の値段にしかならず、工場まで運搬するコストが出せない。そのため伐採業者は、B級材をそのまま放置しているという。A級の木は10本に1本しかなく、伐採した9割の黒檀が無駄に切り倒されていたのだ。

A級とB級の違いは「色」。A級は、均等に真っ黒でなければならぬ。材質の違いはないが、少しでも灰色の部分があったり、まだらが入っていたりすると、B級とみなされてしまう。

そこで、テイラー氏は伐採業者からB級材をA級と同じ価格で買い取ることを決めた。テイラー氏は、「B級の材を使っても、風合いの美しさとしてアピールすることもで

きるだろう」と言う。

テイラー・ギタースは、米国国務省から、海外において「良きコーポレート・シチズン」としての活動を行った米国企業に贈られる「コーポレート・エクセレンス」を2013年度に受賞した。

こだわりのギターメーカーの創立者は、ギターを愛するのと同じこだわりでギターの材料を愛し、材料を育む環境を愛することによって、楽器業界の慣習を変えようとしている。そのこだわりは、ギターの品質やブランドイメージに昇華されて、ファンの心をつかんでいる。



テイラー・ギタースの共同創立者ボブ・テイラー氏